

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現・生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路実現率向上：現役国公立大学合格者数3年後に130人（平成28年度 81人） 大学センター試験における、全国平均に対する寝屋川高校生平均得点率を3年間で10%向上 生徒の授業満足度向上：強い肯定回答率50%以上（平成28年度 強い肯定35% 肯定52% 肯定以上計87%）
計画名	<p>キー・コンピテンシー能力育成を念頭に置いた授業力向上計画</p> <p>～真善美の寝屋川高校は、1200人1200通りの伸びと自己実現を支援します！～</p>

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 学力を伸ばす</p> <p>（1）組織的な授業研究の推進「考える力の育成」「双方向の授業」（2）新たな教授方法や教材の開発、外部資源の活用（3）3年間の学習目標と計画の策定「基礎基本の徹底」（4）学力把握と分析による戦略的仕掛けと全体化（5）テンミニッツの推進とタブレットの活用（6）講習、補習の計画的実施と内容の充実（7）ICTを活用したわかりやすい授業づくり（8）学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策</p> <p>2. 21世紀型能力の育成</p> <p>（1）主体的、能動的学習の確立「A.Lの進化」（2）部活動の積極的推進「個と集団の力」（3）コミュニケーション能力の育成「プレゼンの機会設定」（4）生徒主体のHR活動や行事の企画運営「自主自立」（5）休まず続けることができる生徒の育成「粘り強い精神力」（6）豊かな人権感覚と国際感覚を育む体験学習の推進「多様性」（7）文化活動、読書活動の積極的推進（8）社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨</p>
事業目標	<p>本校は現在キー・コンピテンシー能力育成を念頭に置いた授業改善を進め「真善美」*の学力向上をめざして取り組んでいるが、まだまだ生徒の伸びしろは十分ある。そこで、各HR教室に短焦点プロジェクターを設置し、ICTを活用した授業の充実を中心に更なる授業改善の取組みを進める。「視覚や聴覚に訴える」「板書時間の削減」等を実施することで、座学授業はもとより実験・実習を含むすべての授業で「生徒が自主的に取り組み活動する時間を確保する。それにより、様々な生徒主体の活動を取り入れる」ことで、生徒一人ひとりがそれぞれに「まだ見ぬ己（なりたい自分）」を発見し進路目標をしっかりと持つことにより、学習に対する意識を高め、進路実現（現役合格）をかなえることを支援する。</p> <p>*真善美：寝屋川高校校訓 知性（認識能力）、意志（実践能力）、感性（審美能力）のそれぞれに応じる超越の対象</p>
整備した 設備・物品（数量）	<p>短焦点プロジェクター（20台）</p> <p>（これに加え、学校の予算および後援会の支援により10台追加し、すべてのHR教室30室に設置し事業展開した。）</p>
取組みの 主担・実施者	<p>「授業力向上PT」（校長・教頭・首席・指導教諭・教務主任・進路指導主事・情報主担・学力向上委員会・プロジェクター活用得意者・プロジェクター活用不得意者）</p> <p>* そのうち、ICT活用に特化したPTとして定時制も含めた「ICT委員会」を教頭を主担に設置（教頭、管理情報室、研究開発室、学年から1名、定時制から1名、ICTに不慣れな者1名）</p> <p>実施者については全教職員</p>
本年度の 取組内容	<p>予算配当の遅れおよび減額により、すべてのHR教室への整備が完了したのは、年度末近くとなった。そのため授業改善の取組みはスタートできたが、プロジェクターを使った具体的な対応については当初計画より時期が後ろにずれ込んでいる。しかしながらプロジェクター設置後は、すべての教科で授業に活用。HR活動でもほとんどのクラスで活用した。全定両課程で使えるように、教室番号を統一して、IDの共通化を行った。また、多くの教員が使えるように、「ICT委員会」主催で業者を講師にして研修を行った。</p> <p>先進的取組み校への取材についても、予算の関係で夏季休業中の予定から2月末となったが、今後内容を共有していく。各教科での授業内容の検討、中心メンバー・有志による授業実践、中心メンバー・有志による公開授業・研究協議等も当初計画から時期的には後になりながら行った。今後、授業アンケートの分析と情報共有し、次年度に向けた教科別活用の検討・決定につなげていく。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学「現役」合格者数：前年度比 15人増（平成28年度 81人）⇒79名 大学入試センター試験の全国平均に対する寝屋川校生得点率 前年度比3%向上 （平成28年度 国語108% 数学112% 英語112%）⇒国語111%、数学106%、英語112% 学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」「授業での生徒の活動機会」の項目：強い肯定を前年比5%向上 （平成28年度 強い肯定31%、38%・肯定以上87%、87%）⇒82%、85% <p>・授業アンケート全体 昨年3.21→3.26 項目⑤「教材の工夫」 昨年3.22 → 今年3.26</p>
自己評価	<p>予算配当の遅れおよび減額により、すべてのHR教室への整備が完了したのは、年度末近くとなった。そのため授業改善の取組みはスタートできたが、プロジェクターを使った具体的な対応については当初計画より時期が後ろにずれ込んでいる。</p> <p>プロジェクター設置後は、すべての教科で授業に活用している。HR活動でもほとんどのクラスで活用した。使用開始が28年12月になったので、授業で活用の期間が短く、28年度末の段階では予定していた評価指標での評価はできない。</p> <p>活用という点では(◎)、授業評価や学校教育自己診断の結果では計れない。</p>
次年度に向けて	<p>次年度に向けて既に動いているが、双方向の授業を行うために、セキュリティとの関係を考え（現段階では生徒にパスワードを知らせていない）、ワイヤレスディスプレイアダプターの使用など、技術的な面で一工夫必要であるが、実現したい。</p> <p>また、研修等を行い、見やすいスライド、わかりやすいスライドを作成することで、生徒の理解度を高め、学力向上に努めていく。</p>